



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



古代はすの花

準備と段取り（計画）が大切です・・・



校長 戸野塚 晃

最近のニュースでのブドウ農園の方のお話です。「巨峰は、昼と夜の寒暖差で身が引き締まり、色が濃くなっていくのですが、今年は夜も気温が下がらないので、このように薄い紫色になってしまいました。」柿を育てている農園の方の話では「秋に一番旬になる柿が、この気温のため、熟すのがあまりにも早く、収穫時期には例年の三割減になりそうです。」・・・。人々の生活以外にもあらゆるジャンルで、今年の暑さの影響は出ています。そして、いつまで続くのか見通しが立たない状況でもあります。9月も残暑というレベルではない暑さが続くでしょう。地域・保護者の皆さま、くれぐれもご自愛ください。

さて、例年足を運んでいる行田の田んぼアートに今年も行ってきました。今年のテーマは写真にもある通り、能登半島のみなさんへエールを込めた作品になっていました。行田市の役所の方々、農家のみなさん、設計担当測量会社のみなさん、600人を超えるボランティアの皆さん等々、多くの方々のご協力により、見事な田んぼアートが2.8haという広大な水田に描かれていました。タワーの中に、出来上がるまでの設計図や品種なども説明の展示がされているのですが、使用された品種は6種類あるようで、色別に何百本という苗をあらかじめ設計された目印に植えていきます。タワーが50Mという高さなので、上から見た時に約25度下を向く視点でデザイン画が作成され、それをもとにして目印である杭を打ち込み、ロープで張って田植えをしていきます。実際に目で見て体感すると、田植えにたどり着くまでの準備期間とその段取り（計画）の緻密さと組織的な協力体制と関わった人たちの熱量になおさら心打たれます。言葉にならない感動はおそらく、その準備と段取り（計画）を僅かでも知ることができたからだと感じています。

ところで皆さん、ご存じかと思いますが、パラリンピックがもうすぐ開幕します。スポーツ好きの私としては、また、楽しみが続きます。

（開幕は28日、協議は29日より）田んぼアートという町ぐるみのイベントも、オリンピックに挑むアスリートも期間や取り組み方に違いこそあれ、そこにたどり着くまでの準備と段取り（計画）の重要性は同様だと言えるのではないのでしょうか。4年（3年）という歳月の中で、目標をどこに設定し、何にどうやって取り組み、結果まで導くのか。そのゆるぎない安定したサイクルの中で、アスリートの方々が成長し続けることを考えますと、我々教職員も同じように、教育現場で同様の取組を繰り返し実施して、成長を続けます。教育目標を設定し、そこにアプローチするための授業を中心とした準備と段取り（計画）を共有します。目標対象や取組期間に共通点は無くても、課題解決に向けた考え方と組織的な体制などは同じはずです。このことは始業式を迎えた子どもたちもまた同様かもしれません。今学期に向けて自分の目標をどこに設定し、課題解決のために何に取り組むかを、準備して段取り（計画）を立て、一人ひとりがそれに向き合うのです。1年間で一番長い学期をぜひ、意図的、計画的に取り組んでもらいたいものです。

そして、暑さ対策を万全にさせていただき、児童の健康、体力向上、そして、学校での教育活動の充実も含めまして引き続きの地域、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。